

# 自閉症児子育ての困難とは何か

## ——イアン・ハッキングの理解と熊谷晋一郎の指摘からの考察——

松山大学大学院 渡邊文春

### 1 目的

本研究の目的は、自閉症スペクトラム障害 (Autistic Spectrum Disorder: 以下 ASD とする) に分類される、自閉症児子育ての困難とは何かを明らかにすることである。

### 2 方法

ASD 概念によって分類された当事者やその家族が、もとの概念に及ぼす影響について分析をしているイアン・ハッキング (Hacking 2009) の「相互作用」理論と、熊谷晋一郎 (熊谷 2016) の指摘を照らし合わせて考察を行う。

### 3 分析結果

イアン・ハッキングの「相互作用」理論においては、専門家が何らかの特徴を共有していると思われる人々に名前を与えて、その人々を「自然種」に分類しようとするときに、そこに分類された人々の反応が「自然種」と相互作用することによって、概念自体を書き換えることを「相互作用種」と呼んでいる。

ASD 児には、「他者がどのように考えているか」について推し量ることが困難といわれている。いわゆるメンタライジングの障害である。障害学では、障害者本人の特性である「インペアメント」と、環境要因との齟齬から生まれる困難「ディスアビリティ」という概念を区別する。ハッキングの理論と照らし合わせるならば、ASD の「自然種」である「インペアメント」がメンタライジングの障害であり、「相互作用種」の「ディスアビリティ」がコミュニケーション障害になる。けれども熊谷が、ASD という概念はディスアビリティの次元で生じているものを、個体側に帰属しうる比較的永続的な特徴であるインペアメントであるかのように記述されている、と指摘している。

### 4 結論

従来は、ASD 児の子育ては親からすると我が子のこだわりがある言動を理解できないことが、困難さだと思われてきた。けれどもハッキングの理論と熊谷の指摘を照らし合わせてみると、ASD 児のコミュニケーション障害というディスアビリティの「相互作用種」であるものが、インペアメントの「自然種」とみなされることによって、ASD 児のコミュニケーション障害が手をつけられない固定化された問題のように棚上げされてしまう。その結果として、ASD 児の親たちは我が子の将来に大きな不安を抱くようになる。ここに ASD 児の子育ての困難が生じると考えられる。

### 文献

Hacking I, 2009, Autistic autobiography. PHILOSOPHICAL TRANSACTIONS of THE ROYAL SOCIETY. B.364.1467-1473.  
熊谷晋一郎, 2016, 『当事者研究に関する理論構築と自閉症スペクトラム障害研究への適用』 東京大学.